



理事長 田宮 崇

創立20周年を迎えて

創立20周年おめでとうございます。これまで恙なく、無事に今日を 迎えることが出来ましたのも、地元を始め、県市等行政のご支援の賜 物と深く感謝申し上げます。そして創立以来、既に故人となられた方 も居られる職員の皆さんもありがとうございました。

人口減少、高齢社会にあっては、慢性疾患の増加により、急性期か ら、リハビリテーションや、療養にシフトする、病床の再編成が進行 中であり、介護老人保健施設(老健)の役割も増々重要になっていま す。高齢者施設は、内部で包含する医療、看護等ケアの度合いに応じ て、介護老人福祉施設(特養)や、老健等に加えて、介護医療院が近 年加わり、それぞれ特徴づけられていますが、人口動態、社会保障費 の逼迫等から、今後もいろいろ制度変更が行われるものと思います。 如何なる場合でも、目の前に、サービスを必要とする方々がおられる 限り、我々役職員が全力を尽くす必要があることは、言うまでもあり ません。

新潟県の中央部、豊かな平野の中にあって、老健「ぶんすい」は今 後も使命をまっとうすべく、地域包括ケアの中で、セーフティーネッ トの一環として、努力してまいりますので、地元を始め、多くの方々 のご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。

施設長挨拶



施設長 田村康二

私が施設長に就任し早6年になります。就任当時は長期療養型の風 土が色濃く残り「特養に似た老健ぶんすい」という印象でした。医療 のレベルを上げていくことは急務と考え、併せて入所者の食事・居室 環境の整備をまずは図りました。また、職員の働きやすい職場風土の 醸成も重要な要素であり、年休をしっかり取り、超過勤務のないよう 業務の見直しを徹底しました。職場環境の整備が進むにつれ、退職者 は減少し、6年前には従業員の欠員を補充するのに大変苦労しました が、昨今は求人後の採用もスムーズになりました。

入所棟を預かる療養部は医療の質を向上させ、看取りの方も受け入 れられるようになりました。そして老健本来の役割である「自宅への 復帰」も次第に行われるようになりました。以上の様々な取り組みに より、老健本来の機能が発揮できるようになりました。当施設は長ら く厳しい経営状態が続きましたが、施設が地域に開かれてくるにつれ て、安定化に進み、本来の老健の在り方が成し遂げられるようになっ ています。今後は医療の質をより高め、在宅復帰につながるリハビリ の質も高める必要があると思いますので、これからの在り方をさらに 変えて当施設の拡充を成し遂げたいと思っています。